

審判員の実技指導の手順

(公財) 日本ハンドボール協会
競技・審判本部

審判員が可能性を最大限に発揮し更に向上してくれることを願い、全国にて統一した実技指導を目指し、以下の手順を参考に実技指導を行う。

また、2021 年 4 月発行予定の「レフェリーハンドブック」(P162～169) を事前に確認しておくこと。

◆ 試合前

- ① 指導担当審判員のもと（審判控室等）を訪れる。決して呼びつけたりはしないこと。
- ② 審判員に対して審判員個々に応じた各級の審判員の目標や年度の審判員の目標を確認してから、試合にのぞむことを伝える。
参考： ・ 日本選手権、JHL A 級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・ 全国大会 B 級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・ ブロック大会（支部大会） C 級審判員の目標、年度の審判員の目標
 ・ 都道府県大会 各級の審判員の目標、年度の審判員の目標
- ③ 審判員各個人やペアにおいて課題を持って、試合にのぞむことを伝える。
- ④ 評価表や審判指導用紙（ノート）などを用意し、アセッサー（審判員への指導・助言・評価者）自身も指導のための準備を整える。

◆ 試合後

- *最初に慰労する。
- *トラブルがあった場合でも決して試合直後に指摘しない。
- *更衣後など落ち着いた状態で反省会に入る。
- *関係者以外は反省会に入れない。
- *指導が長時間にならないように配慮する。（30分を超えないように）

反省会の手順

- ① 審判員（ペア）に試合を終えた感想を聞く。
- ② 試合前の課題を聞く。
- ③ 試合前の課題に対してどうであったか聞く。
- ④ 試合での重要事項の確認。
7 mT、失格、トラブルなど
特に疑問点はないかを聞くことは大切である
- ⑤ ④に対しての双方向からの意見交換する。
審判員の分析とアセッサー（審判員への指導・助言・評価者）の分析の擦り合わせ

⑥ 審判上の指導を行う。(アドバイス・ヒントを与える)

各級の審判員の目標を基に振り返る。チェックシートを必ず活用すること

各級の審判員の目標、年度の審判員の目標

評価表の記載事項順に指導

必ず良い点を指摘し励ます

重大事項の指導に関しては、よく確認した後に、はっきりと伝える

競技規則の適用違い(断定的)と審判に関する判断(一般的)な場合は使い分ける

競技規則に記載された用語を使用する

最新の情報を取り入れた指導

私見を優先させたり、あいまいな表現をしたりしない

必ず根拠を示し説明する

チェック

☐

両審判員、T0 が立会いのもとトスを実施

☐

メンバー表、登録証の確認

☐

ユニホームの確認

(色の濃淡とデザインの組み合わせは、互いに明確に区別できるものを着用すること)

☐

ゴールやゴールネット、ボールの確認

☐

オフィシャルとの連携

☐

定刻でスローオフか

☐

得点の管理

☐

時間の管理

☐

コート上の選手とボールから目を離していないか

☐

得点合図の後に、位置を交代していないか

☐

バックステップで動いていないか

☐

判定後、選手とボールの動きを確認してから、次の行動に移っているか

☐

ゴールレフェリーの際に同じ位置に立ち続けていないか(基本位置は6 mラインとゴールポストの間)、状況に応じて素早く移動できているか

☐

7 mT の際、コートレフェリーはスロアーの利き腕側に立っているか

☐

GK なしでの攻撃(6 人 or 7 人)で、審判の位置取りは妨げになっていないか

☐

手順は正しいか 1) 笛 2) 方向指示 3) ジェスチャー(必要に応じて)

☐

正しいジェスチャーを用いているか

☐

ペアで同じ種類の笛を使用しているか

☐

笛を口にくわえたまま、観察していないか

☐

コート上での立ち姿はどうか

☐

罰則や7 mT を判定した後のジェスチャーは、はっきりと1 回だけ

☐

役割分担は明確であるか(ペアの領域を判定していないか)

☐

警告を判定の際、タイムアウトにしていないか

☐

退場を判定の際、①タイムアウト ②ジェスチャー14 になっているか

☐

差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議をしているか

⑦ 最後に必ず今後の課題を指摘する。

改善のヒントを与え、良い審判員となるよう励まして終える